

# 全姉連會報

姉屬性專門雜誌

8





# 全姉連会報 第8号 CONTENTS

## 表紙:千里きいん氏による水澤摩央姉ちゃん(『キミキス』)

全姉連にはもったいない絵師様による摩央姉ちゃんは俺の姉!

## 姉ゲー『ねえ姉!?ど〜ある? ~ナミとミナと時々ボク』(Iルクス)

弟のシスコンパワーは姉をも分裂させる!

願えば叶う、ある姉弟の不思議な一夏。

## 姉ゲー『僕と極姉と海のYear!!』(しゃんぐいら)

2007年度、最多姉人数作品。

5人のお姉ちゃん達と海の家でイチャイチャ!

## 姉ゲー『ひまわりのチャペル(ごきみと)』(Marron)

待望の姉は「ダダ甘え」?

Marron・竹井10日氏、4年越しの大長編姉ゲー登場。

## 姉ゲー『艶女医』(アトリエかぐや/Berkshire Yorkshire)

かぐやB/Yが年上スキーの元に帰ってきた!

今度は研修医となって、お姉さん女医と病院で……

## フランス流行通信 2007

流行発信地・フランスの旬を総裁自ら厳選レポート!

## 姉ラジオ『Radio School Days~二組だけの体育祭~』(ランティス)

声優・河原木志穂姉さんのブラコンの日々を綴った「スーパー弟タイム」。

リアルで弟にトロける姉ボイスを聴け!

## 我林氏特別寄稿『姉ノベル概説講義録2』

要注目姉萌えライトノベル3作品を一挙レビュー。

ラノベファンには必修単位であります。

## 姉ゲー『D.C.Ⅱ ~ダ・カーポ2~』(CIRCUS)

誰からも好かれる優しいお姉ちゃんに甘やかされたいならこちら!

妹なんて目じゃないぜ!! (多分)

## 姉アニメ『sola』

重度のシスコンマニア達をも唸らせた真の実力作。

姉アニメ史に残る感動の姉弟愛は涙無くして語れない。



# ねえ姉? ど～する!?

～ナミとミナと時々ボク～

メーカー	ルクス (Luuchs)
ジャンル	姉さんと毎日HコメディADV
発売日	2007年6月29日

『姉さんが突然2人に分裂しちゃった!?!』  
 僕の姉であり、担任の教師でもある『みなみ』

「ロウるさくて、ちょっとウザい」なんて思いながら  
 も、内心ちょっとだけ惹かれる存在なのも事実…

なんだか複雑な感情のまま、『俺』と『みなみ』姉弟の  
 生活はいつものように続いていた。

だけど、そんな何てこと無い日々、突然降って沸いた  
 トンデモない事件!

『姉さんが2人に分裂した!?!』

『ちょっとワガママ、でも元気いっぱい、お色気も十分』の【ナミ】&『ちょっと天然、でもとってもHな癒し系』の【みな】!!

これはウレシハズカシ、ドキドキ生活のはじまりか!?!もちろん、楽しいだけでは終わらない!楽しくHな同居生活の中に起きるハラハラ事件の数々、休むまもなく巻き起こる出来事に主人公は翻弄されっぱなし!

さらに、謎多き隣のお姉さんまで加わって、てんやわんやの大騒ぎ。姉分裂の謎とは?その謎を知る隣のお姉さんの正体とは?

笑いあり、ホロリあり、もちろんエロスあり

『姉さんと毎日H!コメディアドベンチャー!』

## ■分裂お姉ちゃんふたたび

分裂お姉ちゃんといえば、そう、姉ゲーマニアなら誰もが思い出すであろうあの作品、Marronの『お姉ちゃんの3乗』<sup>1</sup>。「お姉ちゃんが大好きなら お姉ちゃんは増えてもいいね♪」でおなじみのあのゲーム。

<sup>1</sup> 姉ゲー元年である2003年発売。当連会報創刊号にレビュー掲載。姉ゲーを語る上で絶対に避けて通れない記念碑的作品。

お姉ちゃんが分裂するなんていう奇跡はもう2度と起こらないものと思っていたら、あっさりまた分裂してしまいました。人類史上2度目の姉分裂事件です。姉という人種は、かくも分裂しやすいものなのでしょうか。このまま行くと、数年後には“分裂姉ジャンル”が現れそうな勢い。いちいち「姉は3人登場し、全員分裂発生です」なんて説明が必要になるくらいに?

さて、分裂後の人数は本作では2人、『お姉ちゃんの3乗』では3人という違いはあれど、ある日突然に今までの姉が消え、しかし面影や記憶は残したまま、性格が分化した姉が増える状況は同じ。もちろん姉としての性格はデフォルメされて分裂するので、甘い方の姉さんとはことん優しく、ワガママ姉貴の姉さんは一層弟扱いが荒くなるといったように、姉キャラクター的な魅力が強く特徴付けられています。本作では2人ということで、典型的な「天然ほんわか癒し系」と「活発サバサバ姉御肌」に分裂し、それぞれのスタイルで弟である主人公を可愛がってくれることに。

## ■実はなかなかの名作姉ゲー

主人公は学園の生徒で、姉はその学園の教師であり、もちろん主人公の担任。家族に関しては、経緯は明確に語られないが両親はすでに他界し、姉の「みなみ」と主人公の弟は二人だけの生活。

ある朝、主人公が姉を起こしに部屋に行

ってみると、ベッドには見知らぬ女性が2人寝ていて…という事件からストーリーは始まります。

姉が分裂するという、今はまだ特異なシチュエーションは、姉属性の一人として心かき立てられる姉ゲー。しかし、筆者にとってはマイナーな「ルクス」というブランド<sup>1</sup>、初めて目にするシナリオライター、そしてパッケージやチラシから受けた直感から、姉萌えを勘違いしているんじゃないかとか、せいぜいどこにでもある平凡なギャルゲー程度だろうと思っていました。

そんな個人的な理由から、期待度は控えめでプレイを始めたんですが、実際にプレイしてみると、これが思いのほか良くできた姉ゲーでありまして！今年の姉ゲーベスト3に入る作品でした。最初の期待の低さからの反動じゃありません。貴弟が今ここで勧められたから遊んでみたとしても、期待を裏切らないのではないかと思います。

まず、ゲームの中心テーマが姉弟関係に当てられていることに注目。「またまた～。本当は別のテーマがあるのに、姉弟だけに目が行っちゃってるだけじゃないの～？これだから全姉連は…」と思われたら心外です。本作は紛れもなく姉弟間にしか芽生えない愛情を第一に描いています。

みな「わたしね……思った事あるんだ。もし陽彦君とわたしが姉弟じゃなかったらどうなってたんだろうって。思って、考えたんだ……。そしたらね、今と同じ結論に辿り着いたの。陽彦君の事を好きになる。どっちにしろ、好きになっていたんだよ。でもね、少し違うの。陽彦君がわたしの弟で、わたしが陽彦君のお姉ちゃんだったから、こんなにも好きになれたと思うんだ。陽彦君と姉弟になれて良かったって、心の底から思うよ。」

<sup>1</sup> 過去3作品をリリースしていますが、いずれも姉要素はほとんど見受けられませんでした。

シナリオのルートは、分裂後のナミ姉さん、みな姉さん、両方の姉さんの3本のみ。他の登場人物に独立のルートは与えられていません。そして、それぞれのルートが全て「お姉ちゃんとして」「弟として」の心情を基本にしながらか話が続いていきます。姉が分裂したことで、弟が姉に抱いていた思いは加速し、姉も弟に対する気持ちをはっきり表現するようになる。分裂に至った原因や、分裂は元に戻るのか、等々の騒動は姉と弟の想いに絡めて構成されています。

ちょっとだけ難を言わせてもらえば、ナミ姉さんとみな姉さんはそれぞれ別ルートが用意されているとは言え、ストーリーの構造がほぼ同じだったのは残念。二人は双子のような関係なので、同じ思考を辿るから当然、と言ってしまうえばそれまでですが。もっとも、分量的にプラスαが無かったというだけなので、致命傷ではありません。

次に、描かれているシーンに姉弟の日常的なものが多く、なおかつ家庭のみならず学園においても姉さんと弟のやり取りが最も目立つのは姉ゲーマニアにとって大きなポイントです。SF要素が絡むギャルゲーは、その特別な設定の展開ばかりを追って、姉弟の生活感が表れる日常がなおざりにされやすいものですが、本作はその点も手を抜かず描いてくれています。しかも、その描き方が実に姉萌え受けするものになっていて、ライターの姉属性ぶりがピンピン伝わってきます。たとえ一般受けはしなくても、姉好きには伝わって、喜んでくれればいい…そんな意気込みすら感じるほど。だって、主人公がただいまーと帰って来るなり、理不尽に姉に殴られるなんて場面、普通は引きます。でも僕らは喜ぶんです、そういうのを見て。なぜなら、それが姉というものだから。なお、殴られるだけじゃなく、抱きしめられたり、機嫌が良ければ膝枕だってしてくれる優しい場面もあります

ので、念のため。

姉以外の登場人物は3人いますが、脇役に徹し、余計な所で退屈させません。同級生の女の子は、姉ヒロインを引き立たせる役にとどまり、男友達の悪友はバカ格好いい奴で、近所の謎の白衣お姉さんは分裂事件の側面の進行役。皆必要最小限に登場し、お姉ちゃんズとの日々は邪魔されません。

主人公はお姉ちゃんにベタベタするタイプではなく、つかず離れず良い距離感を保っていました。姉の言うことには結局逆らえず、調子に乗って姉への敬意を忘れることもありません。

お姉ちゃんズ「お姉ちゃんの言う事が聞けないの!!」

陽彦「はい!!」

俺は反射的に返事し、また正座し直した。

間違いない。この逆らえない感じは姉ちゃんだ。身体が覚えている。

最後に本作全体について。原画はせんどりくん、旧名・山根正宏さん、かつてのZyxの原画師です。お姉さんらしい表情と体つきのキャラクターデザイン。時々流れる「ゆる絵」はセンスがあって楽しい。ライターは「祝」氏。姉好きなのは一目瞭然。気取った感じやくどさはない自然体の文章。ギャグも適度に効かせて面白く、寒くはありませんが、時折30代以降限定ネタが…。

## ■キャラクター

### ・相沢みなみ(分裂前のオリジナル姉)

分裂前のオリジナル姉。『お姉ちゃんの3乗』同様、分裂前の姉は出番が少なく影が薄いのは仕方ない。ただし、本作は分裂後の姉と姿形がよく似ているので、実はそんなに独自の存在感を持たず、問題ないとも言えます。性格は、後述の姉2人を総合したタイプ。当然と言えば当然か。

### ・ナミ(分裂後の姉・その1)

がさつで奔放、やや乱暴な姉貴肌。姉の権威を笠に着て、弟にワガママや無茶を押しつける暴君系。もちろん、弟のことが可愛いから、つい意地悪したくなっちゃう複雑な乙女の姉心からですよ、…きっと。

「……まあ、こんなのも弟だからね」

「いいから行ってきなさい!もしくは行け!!」

不機嫌は素直に顔に出すのに(しかも不機嫌が似合う)、弟に愛情を表すのは苦手。だから、げしげし蹴られても、それが姉の愛情表現と変換できる選ばれし弟のみが萌えることができよう。この性格にしてCVは一色ヒカルお姉様のナイスキャスティング。キッとにらみ付けるような凄みのある姉御ボイスと、しおらしく弟に愛を語るお姉ちゃんボイスが同時に聞けてたまりません。

### ・みな(分裂後の姉・その2)

天然おっとりで、母性的な部分を引き受けたお姉ちゃん。自分の心に素直なので、弟への愛情も包み隠さず表してくれる。想いの深さは前ページで引用したセリフを参照されたい。

ミナ姉さんの横暴で疲れた心身を優しく癒してくれる様子は、姉菩薩のよう。素直なだけに、実はミナ姉さんよりもHな迫り方をしてくるのも魅力の一つ。たま～に黒い部分が見えたりするのは気のせいです。

## ■姉属性であればあるほど

姉属性にターゲットを絞ったあまり、一般には受けが良くなかったのでは?と心配してしまうほど、我々にとってはど真ん中ストレートの作品。ギャルゲーにおいては姉弟愛が最も尊いと思う姉マニアならば、200%楽しめるであろう姉ゲーでした。



# 僕と極姉と海の Year!!

メーカー	しゃんぐりら
ジャンル	ADV
発売日	2007年6月28日

私立海南学園に通うごく普通の男の子・大河内陸。両親は仕事の都合で海外生活が多く、一人暮らし状態。2学期には進路の決断を迫られる微妙な時期だけに憂鬱な日々を過ごしている。…楽しい。

1学期の終業日、「祖父危篤すぐ帰れ」との速達が届き、生まれ育った海辺の町へ大至急向かう羽目に。じいさん（大河内十蔵）は不動産業を営む、ドスケベ・トラブル豪快ジジイである。出来れば関わりたくないし、この手紙からも陰謀を感じている陸。

「この夏休み中に彼女をGETし、ワシに一刻も早く曾孫を抱かせろ!」「このミッションに成功すれば、不動産会社の社長にしてやる!」「拒否もしくは失敗すれば、米軍士官養成所へぶち込んでやるわい!」

と身勝手極まりない命令が陸に告げられる。

十蔵から運営するように言われた海の家で十蔵が手配したスタッフを待っていると、現れたのは美女5人。

戸惑う陸だったが、幼少の頃に隣に住んでいたお姉さん達5姉妹ということが判明。

なにも知らない様子のお姉さん達と、個性派揃いの町の住民達とのドタバタでHな生活が始まることに…。

## ■僕と5姉と海のイエ〜!

一作品中の姉ヒロイン数は2007年最多の5人を誇る、今年一番の多人数型姉ゲーです。

単純にお姉ちゃん人数が多ければいいってものじゃないことは経験上も分かっていますが、それでも「たくさんのお姉ちゃんがいる!」っていうのはそれだけで弟心を駆り立てる力があります。5人も登場すれば、それぞれの姉は与えられたポジションに特化することができるので（例えば甘い

性格の姉は、厳しい面に関しては他の姉に任せることができますから)、優しいお姉ちゃんはより優しくなれますし。

本作も、5人のお姉ちゃん達が分かりやすい個性とコンセプトを持って弟を可愛がってくれるゲームとなっていました。

## ■幼なじみの5人姉妹と

季節は夏、舞台は故郷の海辺の町。突然祖父に呼ばれて帰ってきた故郷で待っていたのは、海を家の経営と、幼なじみでお隣に住む5人姉妹だった、という設定。開放感あふれる夏の海辺と、カフェスタイルの海の家からイメージされる明るい雰囲気も基調になっています。

ヒロインとなる5人のお姉ちゃん達も、性格こそ違えど明るいタイプが基本。一人だけ人を寄せつけない態度のお姉ちゃんもいますが、ストーリー上の理由から来るものでもあり、ネクラとは言えないでしょう。

主人公とは10年近くずっと会っていなかったため、5姉妹の変わり様に初めは気付かなかったが、遊んでもらった思い出を語られてすぐに思い出す…の形の再会を果たします。この、「長い間会っていなかった幼なじみお姉さん」が姉モノの定番であること貴弟もご承知の通りですが、少々好みが変わるところ。毎年夏休みにだけ会える憧れの親戚のお姉さんが好みか、あるいは何歳までおねしょをしていたかなんてことまで知られている深い付き合いのお姉さんが好みか。本作は前者寄りの弟向け姉ゲー

一と言えます。後者寄りの小弟にはちょっとだけ惜しい設定でしたが。

かつては姉弟同然の関係だったので、10年ぶりの再会でもよそよそしさはないが、さりとして風呂上がりにパンツ一枚で歩いても平気なほどべったりな家族関係でもない、そのくらいの温度とと思って下さい。

## ■たくさんの姉と主人公と

さて、姉ヒロインは3人を超えれば家族的な楽しさを求めたいもの。かの『姉しよ』はその面で大成功していたように、本作でも一定の水準はクリアしていました。姉ヒロイン間のつながりも表れていて、仲の良さも楽しさの要素になっています。ただ、もっとお互いの関係を掘り下げる余地はあったかも。

さらに欲を言えば、一人のお姉ちゃんと親密になりかけたとき、他のお姉ちゃんは冷やかし半分の応援だけでなく、ヤキモチをみせてくれたりもしたら…てなことを思ったり。ま、みんな裏表が無く、弟に関して過剰な独占欲や腹黒い面を持っていないのは、葉波家5姉妹の特徴でもあるんですけどね。

最後に主人公について。

性格はギャルゲーにおける極標準的なタイプです。特別とがった面もなく、変におちゃらけていたりクールを気取ったりもなし。海の家経営で与えられたノルマを達成しようと前向きに努力し、時には悩み落ち込みもする男子学生。ルートによって多少の差はありますが、姉に認められ、釣り合う男になろうと奮闘する熱い面もあり。姉と弟の関係を脱しようとする不遜な気配も時折見え隠れするのですが、結局最後まで主人公による「〇〇姉ちゃん」の呼び方は変えず、姉への敬意は持ち続けているように見えました。

## ■キャラクター

### ・葉波栞（長女）

「長女=おっとり天然」の王道に行くお姉さん。弟のことを優しく包み込むことにかけては5姉妹随一。包み込むと言っても雰囲気だけでなく、B110の豊かな胸で包み込むことも含まれます！

長女らしい威厳はほとんど無く、そのおっとりした性格ゆえに時々しでかす失敗に「しっかりしてよ～」と妹たちにまで言われてしまうようなお姉さん。特に、姉御肌の次女・響香姉さんには叱られてシュンとなることもしばしばなお茶目っぷりを発揮してくれます。

主人公に対しては、ストレートに愛情が向けられていて、

栞「ねえ陸ちゃん、お背中流しっこしましょうよ」

などと言いながら、平然と裸でお風呂に入ってくる、実に困った困ったお姉さん。

### ・葉波響香（次女）

頼れる姉御肌、歩くセクハラ、エロかつこい響香お姉さまここにあり！

5姉妹の実質的リーダー格で、主人公に対しても圧倒的な姉パワーを見せつけます。

セクシーなスタイルと言動で「うりうり～」と弟のウブな心をもてあそぶ悪い姉。も、もうこんな分かりやすいお姉さんに簡単にはだまされないんだからね！と強がってプレイした筆者でしたが、やっぱり3分と保ちませんでした。本当にこういうタイプの姉に弱いです、ハイ。

次女、弟いじり好き、セクハラOK、しかも職業看護師…これでは思いっきりあの涼子さん（『姉汁』）ではないかっ！ならば声優は一色ヒカルお姉さんか？と思えば、これが紫苑みやびさん。逆にヒカルお姉さんは長女の栞さん担当だったりします。この変化球、意外と面白いですよ？

### ・葉波晶（三女）

アメリカ軍特殊部隊帰りの軍人お姉ちゃん。軍隊仕込みの肉体派で、正義感が強く、主人公を逞しく成長させるという強い信念の下で繰り広げられるお姉ちゃんブートキャンプの日々は、嬉しいような辛いような。

髪は紺色系のショート、軟弱者には愛のムチ、不器用な性格と来れば、『つよきす』の乙女姉さんを思い出させてくれます。

普段は鬼軍曹。しかし、一度フラグが立ってしまえば恋する乙女モードが付加。今まで経験したことのない感情に戸惑う晶姉ちゃんが見どころです。

晶（陸は弟のようなものだ…わたしが陸を無意識に目で追ってしまうのは、弟を心配する姉としての感情からだ…決して、れ、恋愛などという女々しい感情からくるものではないッ！）

エンディングが晶姉ちゃんらしいというか、そんな締めもありなのか！？と思わせる内容でした。

### ・葉波ころ（四女）

幼い頃の性格が全く変わってしまい、無口で人を寄せつけず、話しかけても素っ気ない態度しか見せてくれないお姉ちゃん。5姉妹で最も背が高く、美人でもあるのに、イマイチ似合わない眼鏡をかけて目立たなくしてしまっている。

何かワケありで冷ややかな態度をとっているお姉ちゃんなので、性格が変わってしまった原因を探り、閉ざしてしまっただけの心を解きほぐすことが主題になります。ストーリー的には最も凝りやすいヒロインだと思うのですが、実はそんなに深いものではなく、肩すかしでした。ちと残念。

中盤まで冷たい態度が続くため、自然と姉要素も薄くなってしまおうのは仕方ないところ。主人公の努力によって心を開くようになることもあって、主人公はいわば自分

を救ってくれた恩人。そんな相手に対していきなり年上っぽく振る舞うのも不自然なのか、姉萌え的観点からは姉度は低めに落ち着いてしまっていました。

### ・葉波芽生（五女）

わがままで負けず嫌い、減らず口と憎まれ口、ツインテールがチャームポイントのお姉ちゃん。

5姉妹の末っ子である彼女にとって、年下の主人公は唯一しもべ扱いできる相手とあって、最も弟使いの荒い姉です。スタイルの良い姉に囲まれたばかりに見劣りしてしまう胸を大きくしようと涙ぐましい努力をしたり、弟にはやりたい放題しながら外面だけは異常に良い…。そう、はっきり言います。『姉しよ』の高嶺姉貴の再来です。顔面を足で踏みつける程手荒くはありませんが、リアルで暴君姉を持つ弟にとっては現実とダブって苦々しく見えるか、はたまたドキドキ興奮するか。姉のいない負け組筆者は、どんなに傲慢で理不尽な姉でも「それが姉っていうものでしょ？」で夢を持ち続けられるMっ弟(こ)ですから、全く問題ナッシン！

## ■ 実姉弟でなくても…

本作の前提として、主人公とお姉ちゃん達は血縁でもなく、長期間寝食を共にした関係でもないことは銘記しておく必要があります。従って、実の姉弟ほどべったりした間柄ではありませんし、真の意味での姉弟愛や、近親の背徳感もありません。

ですが、大家族的な楽しさ、しかも全員年上の姉的なヒロイン達に囲まれる中で弟同然に可愛がられ、もてあそばされ、鍛えられる喜びは感じ取ることができます。名作と呼ぶには僅かに及ばないものの、姉分補給には十分使える作品ではないでしょうか。



# ひまわりのチャピできみと

メーカー	Marron
ジャンル	学生結婚 ADV
発売日	2007年8月24日

無限大の希望に溢れる学生時代。青春真っ盛りのそんな時の中、最愛の伴侶と出会い、結ばれ、一緒に未来へと歩んでいく……そんな一足早いラブストーリーがあってもいいじゃない。

一風変わったどたばたラブコメならお任せのMarronが久々に送る抱腹絶倒新婚ストーリー!!

## ■Marron 4年ぶりの新作

姉ゲー史において絶対に外すことのできないメーカー、Marron。

おさらいを兼ねて Marron の足跡を辿ると、デビュー作は、姉ゲーなんて言葉すらなかった 2001 年発売の『秋桜の空に』。今や普通に使われる「ダダ甘」の語源となったダダ甘お姉ちゃん・すずねえは、誰もが認める姉業界の元祖です。続いて、姉ゲー元年たる 2003 年には『お姉ちゃんの3乗』。お姉ちゃんが大好きならお姉ちゃんは増えてもいいという、病院行きすれすれの発想で生まれた同作は、作品内に登場する姉ヒロイン達の強力な個性とも相まって圧倒的的支持を集め、姉ゲーブランドの地位を固めたのです。

そんな Marron が 4 年の製作期間において堂々完成させた作品が本作、通称『ひまチャキ』です。

## ■やいあぎ常習犯・竹井 10 日

Marron 作品の企画・シナリオを手がけるのは竹井 10 日氏。姉萌えにかけける情熱は

業界でも一、二を争うライターです。

『秋桜』ではダダ甘でやりすぎ、『3乗』では作品中の姉比重でやりすぎ、そして『ひまチャキ』では分量的にやりすぎています。何と文庫本 20 冊以上に相当するというテキスト量。今作で（攻略可能な）姉ヒロインは 1 人ですが、総量から逆算すれば物足りないということはないはずです。

## ■過剰な笑いと居心地の良さ

竹井 10 日作品と言えば、ギャルゲーではなくギャグゲーとも言える作風でおなじみ。もちろん今作もぶっ飛んでいます。常人ではまず思い付かないようなネタがごく普通に転がっていて、腹筋を休ませる暇もなく笑わせてくれます。

今回は学園が主な舞台。お姉ちゃんの他には同級生あり、後輩ありと、『秋桜』に近い雰囲気があります。学園の多くの生徒達や、町の住人達がみな憎めない良い人揃いなのも Marron の伝統。

主人公の破天荒な言動、それに振り回され、ツッコミに忙しいヒロイン、ボケにボケで返して收拾つかなくさせる脇キャラ達で突き進みながら、シリアスな部分ではきっちり締めて、読後感の良いエンディングで終わる竹井節も健在です。

## ■今度の姉は…?

特に姉属性のプレイヤーを狙ってわざわざ置かれた訳ではなく、おそらく竹井氏の

嗜好によって、当然のようにその世界に存在する今度の姉ヒロインは、鏡丘音々子(ねねこ)お姉ちゃん、通称ねねねえ。誕生日は姉の日。Marron 前々作は隣の幼なじみお姉ちゃん、前作では義姉ときて、今度は遂に実姉へとクラスチェンジしました。

今まで竹井ワールドで登場したお姉ちゃん達は、基本的に弟を甘やかすタイプの姉でしたが、今作のお姉ちゃんは「ダダ甘え」タイプとされています。

ダダ甘「え」…?

一瞬、見慣れない単語に戸惑いますが、プレイしてみれば意味はすぐ分かります。難しいことは何もない、弟にべったり甘えてくる、ただそのままですから。弟を甘やかすことがブラコンの一つの形なら、弟に甘えることもまた一つの形。少しでも邪険に扱おうものならばムキーッと駄々っ子になってしまい、一時たりとも弟甘えをしないと生きていけないお姉ちゃんなのです。

ちなみに、本作は「学生結婚」がテーマ。もちろん、ねねねえルートではお姉ちゃんと結婚できるのですが、その後の新婚デレデレ、バカップルぶりが異常。ねねねえに限ったことではなく、全ヒロインとも凄くバカップルに陥るのですが、ねねねえとは結婚前から既に甘甘だったのに、まだ上があったのか…と驚くこと必至です。

こう書くと、ただただ呑気な笑わせっぱなしの投げっぱなしギャルゲーに見えますが、それぞれに重い過去や苦い経験を持たせており、ちょうど良い具合でストーリーを引き締めています。ねねねえルートも例外ではなく、実弟と実姉の関係ならではのエピソードを持ち、序盤ではおぼろげにしか分からない二人の関係や背景が、徐々に明らかになっていきます。『秋桜』『3乗』で竹井 10 日流のお姉ちゃんに慣れ親しんだ弟ほど、今度のねねねえのタイプには新しい趣向を感じるかも知れませんか？

## ■キャラクター

### ・鏡丘音々子(実姉)

Marron 恒例、ブラコンが高じてダメダメなお姉ちゃん。弟に甘えることで姉弟愛を表現するようなタイプです。甘えてくるといっても、何でも依存しまくりのダメ人間…ではなく、一応は年上らしく芯はしっかりしているのに、弟にべたべたすることがお気に入り、つい甘えてしまう、そんな性格の持ち主。甘えるだけでなく、セクハラまがいの行動を仕掛けて反応を楽しむ素振りも見せてくれます。

もう一つの特徴は、とつてもヤキモチ焼きなこと。ちょっとでも弟が他の女の子と一緒に何かをしようものなら、「○○ばかり、ムキーっ！」とお怒りになります。

かつては別の家に住んでいたたり、名字が主人公と違っていたり、等々の伏線は後半明らかになります。

### ・仁時一紗香(??)

ストーリー中枢に関わる雰囲気を見せる、謎のおねーさん。世界を達観したような話し方をし、主人公に対しても年上の視点から話しかけてくるが、「貴宏さん」と呼び、子供扱いはしない。

存在自体が重要な姉的ヒロインであり、詳しく語るとネタバレに陥るので、ここでは省略。主人公を優しく見守る不思議なおねーさんと思っていれば間違いなし。

## ■姉と笑いと萌えを同時に

Marron 前作までの異常な姉比重に比べれば大人しくなった感は否めませんが、それでもきつちりと強烈なブラコン姉を仕込んでくれていました。ここで紹介したねねねえ以外のヒロインも個性派揃い。最近笑っていないなあ、という貴弟は是非。



# 艶女医 [エンジョイ]

～2人のエッチな女医とのエロエロ研修体験～

メーカー	アトリエかぐや Berkshire Yorkshire
ジャンル	W女医サントAVG
発売日	2007年9月28日

研修医二年目の医学生・長山功（主人公）は最後の研修として夏川東病院に行くことになった。

そこで紹介された指導医は、なんと親戚の妖艶なお姉さんと、そして病院の下見にこの町を訪れたとき、偶然知り合った優しく魅力的なお姉さんだった！

しかも！！

ひと夏を過ごすはずの病院の寮は空室がなく、なんと！2人の女医がルームメイトとして暮らす部屋で一緒に住むことに！！

かくして、エッチでグラマラスな女医から手取り足取り♪エッチなエッチな研修生活が始まる！

## ■かぐやB/Y伝説 第2章

全国の弟たちの心と身体の一部を熱くしたアトリエかぐや Berkshire Yorkshire チーム（以下、かぐや B/Y）が、約1年のブランクを置いて、再び年上ジャンルに帰ってきました！

かぐや B/Y は、『ドキドキお姉さん』を皮切りに、『ナースにおまかせ』『姉汁』の涼子お姉さんのエロ可愛さで爆発的人気を博し、今年年上好きななら知らぬ者のいない、姉の名門ブランド。

しかし、2006年には昔のロリ系に回帰。畑は同じ作物を作り続けると次第に痩せていくように、ここで一旦年下に戻って、年上は充電期間なのだろう、2～3年もすれば帰ってくるさ…と気長に構えていたら、たった1年で出戻り。我慢できなかつたんでしょうか？かぐや B/Y チームのこらえ性の無さにあきれた！そんな所が大好き！

## ■病院モノ？と言うなかれ

年上ジャンル復帰第一弾は何だろう、と注目していたジャンルは、病院での女医モノでした。

古来より病院モノといえば、悪辣な主人公医師が、ナースや入院患者に非道を尽くすのが定番でしたが、我々かぐやっ弟(こ)にとっての病院とは、患者となって手厚い看護をされる場所。涼子さんの再来か？と色めき立つと同時に、ちょっとだけ「また？」との思いもありました。

が、今作の主人公は研修医。研修先の病院で、先輩のお姉さん女医二人とエッチな研修生活だったのです。舞台は病院なのに、年上・目上から指導を受ける立場を実現するこの発想はさすが。しかも一方の女医さんは従姉。病院モノの皮をかぶった姉ゲー。まるで、『ナースにおまかせ』の時の夢を見ているようです。

## ■まさに「エロエロ研修体験」

ゲームの基本は、病院で二人の女医さんのどちらかを選択して各科の研修を受けていくというもの。

『ナース』の患者だった時と違い、主人公が研修医のため、より深く医療現場に即したシーンが多数登場。剃毛はまだ序の口。内視鏡、カテーテル、浣腸、腹部触診、直腸診…。とにかく鬼畜系に使われがちな道具と医療技術ですが、暗さは皆無。むしろ「お

ねーさんと学ぶ楽しい医学」です。「遊びじやない！」と医療関係者に叱られそうな内容ばかりですが、これも医学の進歩のためだから大目に見て欲しいのです。

これらをベースにして、めくるめくエロエロ展開の日々。毎度のことながら、ヒロイン達は恐ろしく貞操観念が低い。今日もスナック感覚でぱっくり食べて…いや、食べられてしまいます。教える側と教えられる側、年上ヒロインと年下主人公の関係上、主人公から迫ることはほとんど無く、ヒロインから仕掛けられるワナ→主人公興奮→それが見つかってなし崩しにHシーン突入の連続。主人公が調子に乗って下克上することもありません。

ひたすらに誘惑Hシーンに徹しているこの姿勢はお見事の一言に尽きます。全体を通したストーリーが薄いのは、残念と評するよりも、やむを得ないと言うべき。いわゆる抜きゲーとして見るなら、今までのかぐや B.Y. 作品中でも最高峰。これで満足できなかつたら、本当に病院に行きましょう。

## ■キャラクター

### ・恩田水樹（内科医）

優しく茶目っ気のある、笑顔の絶えない、可愛いおねーさん系内科医。

主人公とはバスの中で偶然出会い、あるトラブルから部屋に連れ込まれ、いきなりクライマックスまで突入しちゃうようなおねーさんなのですが、これが天然かと思えばそうではなく、実は結構したたか。見た目の優しい表情からは、主人公からおねだりされて、しょうがないなあ～と流されるタイプに見えるのに、実際は主人公が戸惑ったり困ったりする状況を作っておいて、後から自分で回収するような、抜け目ない一面を持っていて油断なりません。

主人公を男の子扱いするのが好きらしく、

「むっふふ～。赤くなっちゃってえ……。でも、素直な男の子はお姉さん大好きだよ♪」

「えへへ…男の子の恥ずかしがる顔は好物です」

「ふふふ、だから大人しくお姉さんに座薬入れられなさい……そうすればすぐに楽になるよ」

こう言われてしまつては、どんな恥ずかしいことだって素直に従うしかありません。

姉弟の関係はなくても、下着姿くらいどうってことない意識で一緒に住んでくれている水樹先生は姉に準じて良いでしょう。

### ・二条院司（外科医、従姉）

ロングの黒髪をたなびかせ、武装錬金の斗貴子さん譲りの眉間の傷。まさにクールビューティー。職業・外科医。弟の本能が直感する。「このお姉さん、ドSだ…」と。

ところが、覚悟していたほど手厳しくはなく、上下関係、姉弟関係の一線は守りながら、意外にも思いやりのある先生。主人公をいたぶって楽しむ趣味はほぼゼロ。にっこり笑って「文句ないわよね？」というような半強制的な物言いも、実は自分から主人公に言い寄ってしまうのは従姉としてのプライドで許せないからなのでは？と思わせる可愛い面にも注目です。

## ■目的を絞って突撃せよ

年上女医先生とのエッチがぎゅうぎゅうに詰め込まれていました、というのが率直な感想。ギャルゲーはHシーンよりも、姉や年上おねーさんとの恋愛ストーリー重視で読みたい弟さんには、それほどお勧めしません。逆に、後先考えず濃厚ラブラブエロエロしたい！という発情期気分の際は、これほど最適な1本はありません。

個人的には『ナース』程度のストーリー性も欲しいところですが、あまりH度が下がってもかぐや B/Y らしくありませんし、ぜいたくな悩みです。

# フランス<sup>め</sup>流行通信2007

## 『二人のお姉さん』

### ～甘く危険なお願い～

秋月耕太・著 フランス書院文庫



ゲームショップの18禁コーナーとは違った意味でオトナの匂いがする、フランス書院の黒いカバーが並ぶ書店の本棚。年上スキには魅力的なタイトルが並んでいても、逆に年上モノが多すぎて決め手に欠ける…と悩むそのフランス軍志願兵！著者名「秋月耕太」を選んでおけば間違いない。その秋月先生2007年ベスト作品が本書。

両親を失ってから、万里お姉ちゃん(21)と実弟和宏(16)は一軒家で姉弟二人きりの生活をしている。姉は熟睡している弟の体を使って叶わぬ想いを慰め、弟は姉の下着を拝借してあらぬ欲望を鎮める日々。そんな中、和宏の担任の女教師(27)は和宏が持つ姉への想いを聞き出し、自らの体と技で告白の後押しをする、というストーリー。

同じフランス書院でも、美少女文庫のように挿絵もなければ文章も堅めの黒カバーはやっぱり敷居が高い…と不安な三等兵よ。本書は軽めで気楽に読める作品だから安心されたい。著者の秋月先生自身が、我々のように姉マンガや姉ゲーなどを楽しんでいるらっしゃる方なので、僕ら若いシスコンの心理はよく理解されているから大丈夫。

とはいえ、美少女文庫とは一線を画す作

風なのは確か。萌え系の浮ついた雰囲気よりも、図書室で一人静かに熱い姉弟の官能を読みたい、そんな気分の時に最適です。

さて、万里お姉ちゃんと、弟の和宏はお互いブラコン・シスコンなのは当然ながら、「実の姉弟だから」という理由でお互い言い出せない状況。それに火を付けるのが、学校の女教師・舞先生。この先生、和宏が姉に想いを寄せていることを聞き出し、私が応援してあげると言って、校内で致してしまいます。…と聞くと、痴女っぽく思われるかも知れませんが、先生に秘められた真実を知れば、決してそうは言えないはず。

また、「二人のお姉さん」という位だから、最後はきっと主人公を交えて三人でしてしまうんだろうとの予想をしたその上等兵！！…正解。でも、これがただれた淫欲の宴とは言えないのです。貴弟が姉の信奉者であればあるほど。その理由は実際に読んでみて感じて欲しい。本書の魅力の一つはここにあります。

## 『My 姉』

わかつきひかる・著 みやま零・イラスト



まず目を引くのは、みやま零先生による可愛いお姉ちゃんイラスト表紙。本書のヒロイン・清花お姉ちゃんは、ちょっと子供っぽいところも残る、どこか放っておけない姉なので、みやま先生の描く絵が非常に

よく似合っています。

主人公・亮太(16)と清花お姉ちゃん(21)は、1か月前に両親の再婚によって出来たばかりの義理の姉弟。よって、清花お姉ちゃんは姉デビューほやほや。それだけに、弟の前では姉であることを見せつけようと張り切ったり、時には怒ってみせたりもするの、肝心なところで失敗してしまうのが可愛いところ。職業が保母さんなのもポイント。おちんちんなんて仕事で見慣れるわよっ！とうそぶく割に、弟の股間を見せようと、「亮太くんが悪いんだからねっ！だって、亮太くんっ、オチン×ン、子供じゃなかったんだもんっ！毛が生えてるなんて、剥けてるなんて思わなかった」とあたふた。

注意点は、後半は弟がSっ気を出す展開になるところ。姉に恥ずかしいおもちゃを付けさせて外を連れ回し、快感でよがらせるのも一興、と思えるタイプの弟ならば大喜びの予感。反面、根っからM気質の弟には、そんな恐れ多いことを考えただけでもブルブルッと青ざめてしまうはずなので、自分がどちらのタイプの弟かをよく考えた上で読むかどうか決めるように。

## 『あねスポッ！』

### ～お姉ちゃんと体育祭～』

青橋由高・著 シコルスキー・イラスト



姉属性を強く意識して書かれた作品で、姉ゲー的な魅力に溢れた3姉妹+弟モノ。

半年間離れて暮らしていた弟が帰ってくる日の朝早く、3姉のそれぞれが弟を想って濃厚な1人エッチで始まる本作。お姉ちゃんズのブラコン度と、弟のシスコンぶりには感動するばかりです。同じ著者・青橋先生の名著『あねらぶ～彼女は三姉妹！』（美少女文庫）で見せてくれた凄まじいブラコン×シスコン小説が今再びといった感。

長女のナミ姉さんは学校の体育教師だけに、体育会系で姉御肌で酒飲み。唯一の弱点は愛する可愛い弟。「さ、答える。カズが一番好きなお姉ちゃんは、この私だよな？」

次女のユキ姉は無表情で感情を表にあまり出さないタイプ。体は小柄、頭脳は明晰。長女の姉に対してもずけずけとものを言う不敵さで、弟を自分の虜にしようと巧妙に立ち回る。「(弟くんは誰にも渡したくない。美波姉さんにも陽奈にもこの子は譲らない……！)」

三女のハル姉ちゃんは、とことん素直じゃないお姉ちゃん。弟のことが大好きだなんて絶対に認めたくないと強がる。この一点だけで十分すぎるほど素敵なブラコン姉です。「(違うの、これは違うの……別に、あのアホのことなんか考えてないんだから……あたし、弟なんかなんとも思ってない……っ)」こんな性格が災いし、3姉妹の中では出遅れてしましますが、素直になれない間に溜め込んだ想いの分、最後の最後でドッカ〜とブラコン炸裂！これでもか、と美味しい場面を見せてくれます。

今作で最も特徴的なのは、姉同士のしれつな弟争奪戦。あの手この手で弟を誘惑し、私こそが一番のお姉ちゃんと言い張り、競い合う場面がコミカルに姉弟愛の深さを物語ります。同時に、3姉妹とその弟との気の置けない家族関係が自然と伝わってきて、楽しい気分にもさせてくれるでしょう。これ1冊で姉ゲー1本分プレイした満足感が得られる、オススメの作品です。



# Radio School Days

## ～二組だけの体育祭～

レーベル	ランティス
パーソナリティ	河原木志穂 岡嶋妙
発売日	2007年11月21日

### ■スーパー弟タイム!?

「リアルブラコンの姉が、弟にかける熱い想いを全世界に向けて語るインターネットラジオがあるらしい」

「ギャルゲーやアニメの話ではない、本当の弟萌えの話が聞ける番組があるって？」

全弟が震撼し、全弟が泣いた。奇跡のラジオ番組『Radio School Days』。

このインターネットラジオ、本来はPCゲームの『School Days』(Overflow)のアニメ版販促のために2007年6月からスタートした番組。作品内でヒロインの声を当てている河原木志穂さんと岡嶋妙さんの二人がパーソナリティを務めています。

基本はお二人のフリートークと、アニメにちなんだコーナーから構成されている番組ですが、『School Days』に関する知識や思い入れは一切不要。なぜなら、この番組のキモは、突発的に発動する“スーパー弟タイム”にあるからです！

“スーパー弟タイム”とは何か。それは、河原木さん…いや、河原木姉さんの弟ラブパワーがあるレベルに達すると発動する、

**「うちの弟はこんなに可愛くてえ、こんなに良い子なのぉ…」**

とリアル姉バカっぷりを発揮する、弟おのろけショータイムのことなのです。

彼女の口からあふれ出る、あまりにも赤裸々な姉弟愛の日々はもはや感動モノ。

今までに話題に上った弟との逸話を挙げてみると…

- ・弟ストーカー事件
- ・弟肉布団事件
- ・弟鎖骨ペロペロ事件
- ・弟下着拝借事件
- ・弟カップル疑惑事件
- ・弟独り占め事件

これらが全て架空の話ではなく、現実にあったことという生々しい告白だから手に負えない。

一例を挙げましょう。

弟と添い寝をするかどうかのネタを振られたときの河原木姉さんの答えはこうでした。

河原木「一応私、姉だから。姉だから、なんて言うの？、(弟の)寝込みは襲うかも知れないけど、添い寝はしない。上だもの！弟の上で寝てる。」

岡嶋「横じゃなくて、上なんだ？」

河原木「上！上だから！」

岡嶋「重っ苦しいね」

河原木「重っ苦しいのかな……？」

河原木「でもさ、知ってる？うつぶせになっている人の上であお向けに寝るの、気持ちいいんだよ？」

岡嶋「背中合わせで？」

河原木「うつぶせになっている弟がいる  
じゃない？…………（自分の）腰に（弟の）  
お尻が来るようにして…………、うちの場  
合、弟を使うから、…………お尻の出っ張  
りがちょうどいい感じに腰に押されて、  
ストレッチになるの。分かる？」

岡嶋「人間マッサージ椅子状態みたいな  
感じね」

河原木「それに、さらにお布団を掛けて  
寝たりすると気持ちいいんだよお～」

岡嶋「要するに（弟を）敷き布団にして  
るの？」

河原木「そうそう！ たまに“ううう  
…………”とかうめき声が聞こえるの」

岡嶋「虐待…」

河原木「虐待じゃないよっ！ 弟は多分喜  
んでる…」

（『Radio School Days』第5回より）

聞いたか諸君！

日常よく目にする「肉布団」とは、特に  
我々姉属性にとっては、あお向けになった  
弟の上にお姉ちゃんが覆いかぶさり、ある  
いは馬乗りになってくることを普通は言う  
ものであろう。しかし、うつぶせになった  
弟を敷き布団よろしく背中合わせで寝るも  
のだと姉さんはおっしゃる。なんというリ  
アル！体全体でスキンシップをとりつつ、  
姉弟の序列を文字通り体現する、それが河  
原木姉弟式肉布団。どんな作家もたどり着  
けない、実際に体験していなければ作り出  
せないであろうシチュエーション。しまい  
には弟も喜んでいるはずだからいいのだと

いう弟持ちの姉特有の理屈。（実際、弟くん  
も喜んでいるはずだ）

放送回を追うごとに、河原木姉さんが番  
組内で最も生き活きして盛り上がるのがス  
ーパー弟タイムだと分かってくると、リス  
ナーも空気を読むもので、明らかにスーパ  
ー弟タイム発動を焚きつけるメールが送ら  
れ、遂にこの番組の非公式メインコーナー  
と成り上がったわけです。

番組はほぼ毎週更新。姉弟学史上貴重な  
資料にも関わらずバックナンバーもなけれ  
ば、音源を保存することも基本的には出来  
なかったもので、全姉連ホームページ上で文  
章として残すしかないと諦めていたところ、  
なんと CD に第14回放送分まで全て収録  
されて発売されることが決定。姉弟愛に生  
きた一人の姉の生き様が、子々孫々まで語  
り継ぐことが可能になったのです。

スーパー弟タイムの内容については、文  
章に起こしたものを読めば十分だと思っ  
た貴弟は甘い！その耳でしかと聞くがいい、  
真のブラコン姉が、頭の中を愛しい弟のこ  
とで一杯にし、よだれを垂らさんばかりに  
締まりのない顔（この事実は、公開録音に  
潜入したスパイからの報告でウラが取れて  
いる）で語る声というものを！もしこの先、  
河原木姉さんが姉キャラ役を演じる作品が  
現れたら、それはもうハマリ役になること  
請け合いであろう。

ところで、注目のブラコン姉声優として  
は宮崎羽衣さんも挙げておきたい。彼女も  
また熱烈なブラコン姉さんだそうで、2006  
年には河原木姉さんと一緒にWebラジオの  
『Gift にじいろホームルーム』持っていた  
という。そこでは「おとう党」なるコーナ  
ーが存在。弟への溺愛っぷりを熱く語るコ  
ーナーだったとか。どんな姉属性天国のラ  
ジオだよ！

今後この2人が出演するラジオ番組が始  
まったら、必ずチェックしておくように！

我林氏特別寄稿

## 姉ラノベ概説講義録 2

### 第1講 『影≡光・暴走編』レビュー



著者：影名浅海 イラスト：植田亮

発行：集英社スーパーダッシュ文庫

発行日：2007年8月30日

本会報第7号にて、拙稿を書かせていただいた時は、正直、また延期されるのではないかという不安がありました。ですから、無事、8月に発売された時は、ほっと胸をなで下ろすと共に、久々に読める星之宮姉弟の物語への渴望から否応にも期待は高まりました。そして、結論から言えば、姉萌え的に充実した内容でした。

まずは、本レビューに入る前に、前作・激突編のおさらいをしておきます。なお、姉萌え的近眼色眼鏡のフィルターを通しておりますので、念のため。

#### ■激突編(姉萌え的)あらあじ

御影お姉ちゃんは、夏休みを利用して、世界で一番愛する弟に会うため、イギリスへと旅立つ。

突然の最愛の姉の訪問に驚く無自覚シスコンの弟・光輝だが、遠くから会いに来てくれたことを素直に喜ぶ。しかし、ツンデ

レ師匠ルーシーにとっては、厄介者が来た和不機嫌そのもの。

御影お姉ちゃんはルーシーと対峙。弟に修行を付けてくれた礼を言いつつも、「だからって光輝は渡したりしないからね」と宣戦布告。ここにブラコンお姉ちゃん対ツンデレ師匠の「激突」が始まる。

弟との深い絆を確信している御影お姉ちゃんが余裕綽々なのに対し、ツンデレ師匠ルーシーは光輝の鈍感ぶりにいらいらするばかり。

そして、その鈍感な弟君は、姉を心配することで、なぜルーシーが不機嫌になるのか理解できず、もちろん、その理由をお姉ちゃんが告げるわけもなく、ただただ戦々恐々……。

その後、光輝達は修行先において、氷漬けの女性を発見、面倒に巻き込まれるのを危惧して、反対するルーシーを振り切り、御影と光輝の姉弟は女性を助け出す……以上！……え？ 後半部分？ お姉ちゃんの出ない『影≡光』なんて、『影≡光』じゃないもん！（マテ

#### ■続・姉vs師匠

今回も、御影お姉ちゃんのブラコンぶりは絶好調！

弟君が素直じゃない態度を取れば、わざと拗ねて、弟の気を引き、ルーシーを挑発。弟とツンデレ師匠双方を手玉に取るかのようなお姉ちゃんぶりは、腹黒さ十分。ホテルはもちろん、弟と同じ部屋。食事の時はすべての姉弟にとって当然のたしなみである「あーん」を見せつけ、その度に怒るツ

ンデレ師匠。それに対し、余裕の笑みでさらに挑発する御影お姉ちゃん。

ここまで来ると、ルーシーファンの読者が、御影お姉ちゃんを忌み嫌うのも分からないわけではないのですが、しかし、我々は姉萌え属性…むしろ、そこにしびれる、憧れるう！ はい、そこ！ 「古っ！」とか言わない！

## ■姉弟連携プレイによる退魔

『影≡光』と言えば、本来は退魔アクションの物語ですが、姉萌えと直接関係ないため、今までの拙稿においては、その部分について特に触れていませんでした。

しかし、姉弟が協力して退魔を行うとなれば、話は別です。

今回二人が対決したのは、<sup>レッサーデーモン</sup>下位悪魔。下位といっても、今まで姉弟が退治してきた妖魔などよりも格上の厄介な存在。二人の力を合わせても、おそらく敵わないほどの存在。

しかし、それは単純に二人の力を足し算した場合の話。数字の上では、 $1 + 1 = 2$ 。ただし、こういう場合、誰とコンビを組むかによって、その解は2どころか1以下になってしまう可能性があります。

これは、逆に言えば、組む相手によっては、2以上の解をたたき出すことが可能であるということ。そして、星之宮姉弟は疑うべくもなく、後者の方です。

互いを信頼し、そして双子の姉弟という強い心の繋がりがあからこそできる二人の連携作戦は見事という他ありません。

## ■姉のモノは姉のモノ、弟は姉のモノ

(注・脱字はありません)

御影お姉ちゃんは、基本的には誰にでもやさしいお姉ちゃん。しかし、最愛の弟が関わるとなれば話は別です。例え、相手が

大親友であろうが、恩あるツンデレ年上師匠であろうが、弟に好意を寄せる女は、すべて「悪い虫」、女の敵ならぬ、姉の敵。もちろん、不幸を背負った幼い少女であろうが、関係ありません。

お姉様はにっこり微笑み悪い虫にこう告げます。

「光輝は私のモノだからね……」

弟すら凍り付かせる魔性の微笑み…。

これは、もしかして、今流行のヤンデレか!? 御影お姉ちゃんに、ヤンデレブラコンお姉ちゃんという新たな属性を与えるための布石か？

次の巻がまた楽しみになってきました。

## 第2講 本田透先生特集

### ～姉属性宣言に敬意を表して～

本田透氏は、ライトノベルの分野はもちろん、エッセイや評論でも活躍なさっている作家です。今までの作品では、「姉」に関するものはあまり見られず、『円卓生徒会』シリーズも、「姉」の設定がありながら、ほとんど登場しなかったため、姉属性にとってはなじみの薄い作家でした。

しかし、今年の9月にその評価を一変させる出来事が起こります。

「世間的には妹萌えと思われている僕ですが、実態は燃え尽きるほど姉属性です。」

『円卓生徒会5』の紹介にあたり、ご自身のウェブサイト「しろはた」で語られた衝撃の真実！

そう、本田先生は姉属性だったのです！

ライトノベルにおいても、姉作品が増えてきましたが、作家自らが姉属性であるこ

とを宣言した例はまだ少なく、我々にとっては非常に頼もしい「姉属性宣言」となったのです。

そこで、本講では本田先生の最新ライトノベル2作(注)を紹介したいと思います。

## 0「円卓生徒会5」



イラスト：大田優一

発行：集英社スーパーダッシュ文庫

発行日：2007年9月30日

『円卓生徒会』シリーズは、円卓騎士団の物語をベースに、恋愛学園モノを掛け合わせた異世界ファンタジー+学園ラブコメの物語です。

聖剣エクスカリバーの力で、異世界へ飛ばされ、王になってしまった主人公・紅龍亜砂(ヘタレ系)を中心にツンデレヒロイン子猫遊さんと、円卓の騎士の名を持つヒロイン達が、ケルト風の異世界と日本を歩き来しながら様々な物語を織りなしています。

この作品は、シリーズ第1巻より、主人公はシスコン気味であるという設定があり、「主要登場人物」の紹介で、モーガン姉さんが載ってはいたものの、肝心のモーガン姉さんの登場シーンがほとんどなかったため、正直見落としていました。

しかし、シリーズ第4巻の終盤にて、モーガン姉さんが突然の帰宅。前述の通り、第5巻の発売に際しては、本田先生が、姉属性であることをカミングアウトされたこ

ともあり、姉萌え的な株が急上昇してきた作品です。

そして、第5巻は姉属性読者の期待に十分応えてくれる内容でした。

### ■「世界最後の魔女…ただしブラコン」

“弟の所有権は姉のみが持つ固有の権利であり、弟は姉に奉仕する義務を有する”  
(『世界姉権利章典』より)

モーガン姉さんは、弟をこき使いつつも、弟による奉仕を最大の喜びとしている、まさにブラコンなお姉ちゃん。

そして姉というものは、弟のことを誰よりも何よりも心配し、愛する者であることは、あえて語るまでもないことです。

しかし、弟を守るためなら、(ヤンデレとは違う意味で)弟そのものを壊すことすら、躊躇のない姉、そんな凄みをもった姉がモーガン姉さんなのです。

モーガン姉さんは、今のままでは、弟が異世界の王で居続けることで、弟が破滅してしまうと確信しています。そのため、異世界を行き来するために必要なエクスカリバーを取り上げ、取り返しに来た弟に対し、容赦のない攻撃を加えます。弟を破滅させるくらいなら、自らの手で壊してでも、弟を守る。これがモーガン姉さんのブラコン。それは裏を返せば、王である弟に強くなって欲しいという気持ちの表れ。

生まれて初めて、姉に逆らった弟、それは、ダダ甘タイプのお姉ちゃんであれば、「私の可愛い弟がグレた〜」と、しばむ〜、なことになるわけですが、モーガン姉さんにとっては、手塩にかけて育てた弟が成長した証。その弟と対峙すること、そのものが姉としての喜びなのです。

そして、何があろうと弟を受け入れてくれる存在、いつでも弟の帰りを待っている心の故郷、それが「姉」であることをモーガン姉さんは教えてくれます。

## 『イマジン秘蹟 (I) 魔女症候群の巻』



イラスト：文倉十

発行：角川スニーカー文庫

発行日：2007年10月1日

### ・概要

高校初登校の日、尾津智弘の前に現れたのは、槍で校舎を破壊しまくる女生徒と、それに立ちはだかる今久留主高校異端審問部（イマジン）という三人の少女（エクソシスト）だった。全身が真っ黒の“魔女（部長）”、金髪碧眼のグラマラス娘（副部長）、袋を被り棺桶をズリズリひきずるちんまり少女（書記）——こんな妖しすぎる三人に出会った尾津智弘の物語はおかしな方向に転がり始めて…！？

『円卓生徒会5』が発売されてまだ間もない、10月初め、本田先生が、自らを姉属性であることを、証明するかのように出した新シリーズは、双子の姉弟の弟が主人公、そして、主要登場人物は先輩で固められているという、まさに「姉属性宣言」を証明するかのような内容でした。

### ・主要登場人物

尾津智弘…主人公、双子の弟。

尾津玲於奈…智弘の双子の姉、引きこもり  
大道寺美沙…先輩。“黒い魔女”少々ヤンデレ？「姉」の素質有り

## ■お姉ちゃんはモノローグ主義

玲於奈お姉ちゃんの設定は重度のひきこりです。そのため、彼女にとって、外はRPG的危険な世界。現実世界は家の中だけであり、「人間」は弟だけ。他はみんなNPCだと思っています。

そんな風に考えているので、「外の世界＝危険な世界」であり、学校に通う弟を心配している…ようなんですが、でも、外の世界の話を毎日弟にせがんでいる好奇心いっぱいのお姉ちゃんです。

自分では何もできない、しないダメダメなお姉ちゃんなので、弟がいないと、餓死確定。弟は不満を漏らし、時に殺意すら抱くとか言いつつも、結局見捨てたりしないので、シスコンの資質は十分にあります。

引きこもっている間は読書に没頭しているので、知識は豊富。その知識が物語の事件解決の鍵になるというパターンです。

おっとり系なお姉ちゃんですが、弟独占欲や溺愛度は高め。巨乳先輩の話を聞いて、自分の胸をはだけて見せようとしたり、それに性的欲望を抱かない弟にすねたり、「首を絞めてやりたい」と怒る弟に「マニアックなんだから」「でも、ちひろくんになら殺されてもいい」とM?なところ見せたり、ニートの世界に引きずり込もうとしたり、ダメ姉要素十分です。

もちろん、と言いますか、お姉ちゃんが引きこもりになった原因らしい伏線が引いてあり、次の巻も期待が持てます。

大道寺先輩も、本稿では割愛しますが、なかなか傲岸不遜な先輩ぶりで、姉要素ありです。「姉孝行は弟にとって最も大切な徳目なのよ」とのお言葉に感銘を受けました。

(注) 2007年12月末に『円卓生徒会6』が発売予定ですが、物語の舞台がケルトに戻るため、モガン姉さん登場の可能性は低いと思われます。



# D.C. II ~ダ・カーポ2

メーカー	サーカス
ジャンル	こそばゆい学園恋愛アドベンチャー
発売日	2006年5月26日

深々と桜が舞っていた。一年中絶えることなく、その島では薄桃色の桜の花が咲き誇っていた。

——季節は冬。地面にはうっすらと霜が降り、空からは純白の結晶が舞い落ちる。吐き出す息も白く色づき、布団から抜け出すのが憂鬱になる季節。だと言うのに、

「相変わらず、季節感のない景色だよな」

通学路の桜並木を歩きながら、少年—義之は呟いた。

「まあ、それが初音島名物『枯れない桜』だしね」

「や、今更そんなことをしじみ言われても」

少し前を歩くふたりの少女が振り返る。

ひとりには楽しそうに笑顔で、もうひとりには少しかったるそうに。それも見慣れた景色。少年は春のように咲き誇る桜の木々を見上げて、白い息を吐き出した。

間近に迫るクリスマスパーティー。

そして、年が明けたら付属最後の学園生活がはじまる。出会いと別れ。喜びと悲しみ。そこにどんな日常が待っているのかはわからない。

でも——、

何かが変わりそうな気がする。

ゆらり、ゆらりと舞い落ちる桜の花びらを眺めながら、——少年は少し先の春を夢見た。

## ■積みっぱなしでしたが

まずは、ギャルゲー界的にもビッグタイトルのこの作品を1年半も積みっぱなしにしていたことを素直に反省したい。特にメインヒロインである音姉に。そして、もう一つ反省しなければならないのは……また後ほど。

## ■学園物でありながら姉妹物

本作は、オーソドックスな学園物。

舞台となる初音島は、寒い冬でも桜が咲き誇り、そしてある人達はちょっとした魔法が使える。それくらいが変わった点で、他は一般的なギャルゲーです。

個性的で気の置けない間柄のヒロインや男友達が、ジャンル名通りこそばゆい恋愛関係を紡いでいくストーリーで、なるほど人気を得るのもうなずける、そつのない出来に仕上がっています。

健気な幼なじみ、しれっと毒舌の同級生、学園のアイドル、ロボッ娘。そして、半同居の妹と…我々の大好きなお姉ちゃん。

大分類としては、前述のように学園物と捉えられるのが普通でしょうが、プレイしてみると実は姉妹物と言っても間違いではありません。さすがに幼なじみや同級生のルートでは舞台の比重が学園寄りになるとは言え、ほぼ毎日自宅において朝倉姉妹とのコミュニケーションがあります。そして、姉と妹のルートは学園でのヒロインを複数攻略してからでないといけないようになっており、しかも姉妹両方のルートとも質・量が充実。まるで姉妹以外のヒロインは前座に過ぎないとすら思える扱いなのです。

最初のプレイ数回は前座達と付き合うことで初音島の世界観を把握し、攻略可能になったら<sup>2</sup>いよいよ本命である朝倉姉妹と仲良く…。これが本作の正当かつ上手なプレイスタイルです。

<sup>1</sup> 個々のストーリーが貧弱という意味ではなく、ちゃんと面白くまとまっています。

<sup>2</sup> タイトル画面ががらっと変わります。朝倉姉妹こそがD.C.IIの真髄、と思わせる画面です。

## ■本当の「姉弟同然」

前作、『ダ・カーポ』をプレイしたことはありますか？

筆者はありません。が、正ヒロインが妹で、その彼女で人気を博したことくらいは知っています。だから、実は『ダ・カーポII』は基本妹ゲーだという先入観があったのです。

しかし、実際は妹ゲーに加え姉ゲー要素たっぷりの作品なのでした。

本作の主人公は、前作からつながりのある、年齢不詳の女性理事長（もちろん見かけは若くて女子校生レベル）の家に住んでおり、注目の朝倉姉妹はお隣に住んでいます。従って、建前上、同棲ではありません。血縁関係ありませんが、いわゆる「姉弟同然に育ってきた」というあれです。

この業界で「姉弟同然」というのは結構くせ者で、“ときどき遊びに来る”程度から“一緒にお風呂に入っていた”、“一緒に寝かし付けられていた”まで幅広く、もし「単なる幼なじみとどこが違うの？」レベルだったりすると、期待した分がっかり感が強くなる諸刃の剣。長年会っていなかったのに記憶のはるか彼方、なんて要らんオプションまで付いていると看板に偽りありと断じたくなるもの。

だが、主人公と朝倉姉妹の関係は、本当に「姉弟同然」でした。

朝晩の食事はいつも主人公宅で3人一緒。姉妹はちょくちょく主人公宅の風呂に入り、その風呂上がりのひとときも、また冬休み中のまったりした昼下がりもこたつに入りに来る姉妹の無防備な姿。血縁とかお隣とか関係ない、これこそ本当の意味での姉弟同然！

姉と弟の絆は血縁じゃない、共に暮らして行く中で育まれるものだ！筆者のこの信念に揺らぐところはありません。

## ■キャラクター

### ・朝倉音姫（おとめ）（朝倉姉妹の姉）

音姫（おとめ）お姉ちゃん、通称音姉。ゲーム版、アニメ版を通してヒロイン紹介順位は常に1位を占める、名実ともに正ヒロイン。

公式設定は「完全無欠な甘やかしお姉ちゃん」。完全無欠とまで言われてしまうと、「甘やかし」と感じるレベルが一般とは大きく隔たってしまう我々濃い姉属性人には、もはや病的なまでに甘いお姉ちゃんを想像しますが、音姉に関しては健全な甘やかしお姉ちゃんです。

だって、例えば音姉とその同級生（まゆき。CV:三咲里奈）と主人公の3人でお弁当を食べているときのシーン、

まゆき「にしても、音姫ってあれだよな。弟くんにはホント甘いよね？甘いって言うかあれか？過保護っつーか、弟離れできてないって言うか」  
音姫「そんなことないよ〜」  
ふきふき。  
俺の口元をハンカチで拭いながら音姉が答える。

このくらい姉と弟なら当然だよ〜。真の「甘やかしお姉ちゃん」を知る手練れの弟なら、まだまだ可愛いレベルっすよ！弟に対してあまりにも激甘だと、音姉が単なる滑稽キャラになってしまうので、この位がちょうど良い按配です。

音姉は学園の生徒会長さん。もちろん文武両道の優等生。人望も厚く、理想的な姉（主人公談）なのです。主人公と一緒にの時はいつもにこやか、ただし叱るべきところはきっちり叱る。でも、姉の権力を振りかざしたり、からかいや弟いじりはしないという、「優しい姉」の理想を壊さないお姉ちゃんなのです。

学園では「できる生徒会長」で通っている音姉が、学園で主人公を見つけるや「あ

「っ、弟くん<sup>1</sup>だー！」と駆け寄って相好を崩す様子は、ギャップ萌えも手伝って、ブラコン姉の魅力全開になります。

弟くんには立派な大人になって欲しい、「弟くんがだらしないと、お姉ちゃんが恥ずかしい思いをするんだからね」と姉の立場からきっちり弟を教諭す一方で、何かと世話を焼いては「弟くんにはやっぱり私がついていてあげないと」と満足そうに胸を張る音姉。音姉公式設定では「好きなもの：お姉さんぶること」とありますが、これは誤り。お姉さんぶるというのは、本当はお姉さんではない人間が無理してお姉さんらしく振る舞うことを言うのですから、根っからのお姉ちゃんが「お姉さんぶる」なんてことは論理的にあり得ません。

さて、音姉ほど保護者的でブラコンだと、弟に悪い虫が近寄ってきたときには小姑チックなジェラシーを見てみたいもの。姉以外のヒロインが多く登場する作品での見所の一つですが、音姉は意外とあっさり系。優しく見守って応援してくれるのも良い姉なんだけど、なんだけど…。

というわけで、音姉は本作に欠かせないヒロインの一人のはずなのに、アニメ版での冷遇と来たら！アニメ版の主人公は、幼なじみである小恋とくつつくストーリーが軸であることは血の涙を飲んで受け容れるとしても、それにしたって音姉の登場シーンの少なさと印象の薄さには呆然。この失意が、幸か不幸か、積みゲーとなっていた本作に手を付けるきっかけになりました…。

### ・朝倉由夢（ゆめ）（朝倉姉妹の妹）

ツンデレ妹。妹萌えの心をグッと掴みそうな、全妹連ならばきっと大推奨であろう

<sup>1</sup>音姉からの主人公の呼び方は「弟くん」。姉萌えの心をくすぐる良い呼び方ですが、まだマイナー。現実世界ではほとんど使われない呼び方とはいえ、二次元では大いにアリです。

という妹。

いじっぱりで不器用な妹とはメーカー公式の紹介ですが、まさにその通り。心の内では兄に対する想いで一杯なのに、素直に表現できず、素っ気ない態度しか見せてくれません。音姉が弟くんの姿を見つけては「一緒に帰ろ、弟くん！」と声をかけるタイプなのに対して、妹の方は校門のところまでたたずんで、兄から「一緒に帰るか？」と声をかけてもらうのを待つタイプ。それでいて、帰り道に甘い物を兄にたかって下校デートになだれ込んで内心喜んでいるお兄ちゃんっ子なのです。

しかし、しょせん由夢は妹キャラ。年下なんぞ歯牙にもかけないこの全妹連総裁が食いつく可能性などあり得ない！と、高をくくっていたら…。この由夢ちゃん、家の外では猫をかぶりまくってアイドル的眼差しを集めながら、自宅では色気のないジャージと眼鏡姿で、ぐでーっと油断しまく。「や、こんな恰好どうせ兄さんくらいにしか見せませんから」。仮にも年頃の女の子が、無防備に素の姿をさらけ出して恥じらわないこの身内感覚。男兄弟しかいない総裁にとって夢の関係を由夢にも見いだしてしまったのです。決して年下や妹に目覚めたわけではありません！ついカッとなって萌えただけなんです。今は反省しています。

## ■優等生お姉ちゃんで成功

間口の広い万人向けのギャルゲーで、派生作品も多く、売れているのも納得の良作。音姉に関しては、弟甘やかしレベルを健全な範囲に収めていることで音姉を色物キャラにおとしめず、上品な後味に仕上げているのに成功していました。好きなギャルゲーのヒロインを聞かれて、「D.C.II の音姉！」と答えるのは、どこへ出しても恥ずかしくない答えではないでしょうか。



## sola

原案	久弥直樹
キャラクター原案	七尾奈留
初回放送期間	2007年4月～6月

### ■まずはお詫びを…

本当は前号ですでに紹介すべき作品でした、『sola』に関しては。

全話見終わった直後、これはすごい姉アニメだ！…と思ったものの、よく噛み砕けていないかも知れない（それだけ深く思わせる作品なので）、書くなればもう一度通して見てからと慎重になったのが一つ。

もう一つは、非常にレビューしにくい作品、ということにありました。

### ■最強タッグによる作品だが…

作品の原案は、『ONE ～輝く季節へ～』『Kanon』を手がけた久弥直樹氏。ストーリーに関しては、面白くない訳がない、鉄板の作品だったのです。

加えて、キャラクターデザインは人気イラストレーターの七尾奈留さん。

強力なコンビで世に送り出された『sola』は、もちろん十分に面白かったのですが、世間的には今ひとつ盛り上がり欠けた印象がありました。

なぜっ！？こんなに姉弟愛溢れまくった作品なのに！！

見た目が少々地味な雰囲気だったから？  
分かりやすい萌え要素に欠けたから？

そんなのどうだっていいんです。姉アニメとしては間違いなく一級品なんだから！

### ■これこそ真の「姉」アニメ！

この『sola』という作品、ストーリーすら紹介するのに苦労します。中心的なヒロインである四方茉莉や森宮蒼乃姉さんとの過去や関係が物語の大きな柱なのですが、詳しく説明してしまうと面白さ半減なので言えません。どうやら四方茉莉は人間ではない「何者か」らしい。そして、蒼乃姉さんも彼女に関して因縁めいたものがある。主人公の依人は二人の間で翻弄され、最後に何を知り、何を見るのか？

それは…「姉の愛」。

全13+α話を見終えて振り返ると、全ての事柄が「蒼乃姉さんの弟に対する愛」から始まっていることに気付くでしょう。蒼乃姉さんは終始無口、無表情で、何を考えているのか、弟をどう思っているのかすら読めません。弟を甘やかしたり、からかったりもしない。なのに、どうしてこんなに姉らしいのか。それは、蒼乃姉さんは全て「弟を想う心」で動いているからではないでしょうか。偉大な姉の愛に対する依人の出した答えも非常に尊いものでした。

これから見てみようという貴弟へ。序盤は蒼乃姉さんの影の薄さにくじけそうになります。しかし、過去が次第に明らかになり、蒼乃姉さんが遂に立ち上がったとき、アッと息を呑む大展開が待ち構えています。依人！依人！依人！！と弟を想う心に突き動かされる蒼乃姉さんの姿に、誰もが心を強く打たれるはず。

姉の愛は海より深い。切なくなるほど深い蒼乃姉さんの想いをぜひ見て欲しい。

2007年は姉好景気に沸いた1年でした。

姉属性業界では「姉ゲー元年」と称される2003年が帰ってきた、と言っていいかも知れません。なにより、『姉しよ』を送り出したタカヒロ氏による新作が出て、Marronの新作が年を同じくして発売されたことが象徴的でした。

『kiss×sis』が3年越しに単行本化されたり、アトリエかぐやB/Yが年上ジャンルに戻ってきてくれたのも、2007年の引力でしょうか。

新規参入作品も順調で、『sola』は姉属性ならば誰もがうなずく近年まれに見る姉アニメに仕上がっていたり、『アットホーム・ロマンス』は登場人物だけでなく著者本人までもがシスコン・マザコンで病んでいる4コマだったりする始末でした。

今年、新しく芽を出したのはブラコン声優ブーム！

もちろんその筆頭は、現代の尼將軍あるいは甘將軍の河原木志穂御大であらせられます。ギャルゲーの中の話ではない、リアル話として弟への愛を語るお姉ちゃんトークは、特に負け組にとっては全く免疫のない体験でした。他にもブラコン姉疑惑がある声優さんが複数報告されています。ブラコン声優ジャンルに関しては今後も監視を続ける予定です。

最後までお読み下さり、ありがとうございました。

またコミケ会場で、ネット上でお会いしましょう。

## 全姉連会報 第8号

発行：全姉連 総本部

発行日：2007年12月31日

著者：全姉連総裁

連絡先：**so-sai@zenaneren.org**

表紙：千里きりん様

ホームページ「きりんの憂鬱」

<http://kirinnoyuuutu.bufsiz.jp/>

印刷：株式会社ユリクリエイト様

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org/>

(mobile : <http://www.zenaneren.org/a.cgi>)



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉情報を頂きました。

ここにお礼申し上げます。

本書のご感想・ご意見は、いつでもお待ちしております。



*Elder sisters are in their heaven.*

*All's right with the world.*

**全姉連 総本部**

*-the world's largest organization of elder sister geeks*

[www.zenানেরen.org](http://www.zenানেরen.org)